

公益社団法人 私立大学情報教育協会  
経営学・経済学・会計学・心理学・数学・機械工学・経営工学  
建築学・電気通信工学・土木工学・物理学・化学・生物学  
・被服学・美術デザイン学グループ  
分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 参加申込書

開催日時：令和3年12月25日(土)13:00~17:00 ZOOM会議

※ 必要事項をご記入の上、FAX ( 03-3261-5473 ) またはメール ( info@juce.jp ) にてお申し込みください。

- ・記入いただいた個人情報、本協会の事務連絡及び委員会活動の案内に限定して利用させていただきます。  
・データベース管理作業を外部委託する場合は、目的外の利用や情報の流出がないよう、十分留意します。

『参加者ご記入欄』

※ できるだけ詳しくご記入下さい。後日、テレビ会議室専用のURLのご案内や今後の活動の案内をさせていただきます。  
ふりがな ( )

氏名： \_\_\_\_\_ 大学名： \_\_\_\_\_

所属・役職： \_\_\_\_\_ 担当学問分野： \_\_\_\_\_ 学 \_\_\_\_\_

E-Mail： \_\_\_\_\_

**アンケート** 意見交流の運営に役立てるため、以下の(1)から(7)についてできるだけ記入下さい。

(1) 学修者の学びの個別最適化に向けた先生の対応について、特に配慮している取組みを3つ選び、  
□にレ (チェック) を付けて下さい。

- シラバスや授業で「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にしている。
- 卒業後の社会人から授業体験を紹介し、担当する授業の重要性を気づかせている。
- 主体性と学修意欲の向上をはかるため、社会課題等の解決に授業を連動している。
- ポートフォリオ等で達成度を把握し、個別に教育・学修を指導している。
- TA やSA による個別の学修支援を実施している。
- 学修者同士による教え合い・学び合いを実施している。
- 学修者(海外留学生、障害者等)の環境に応じた授業を実施している。
- 不安・悩みを抱える学修者に相談・助言している。
- 特に学修者の立場に配慮した取組みはしていない。
- その他(40字以内で記述下さい)

( )

(2) 先生が実施の遠隔授業の状況について、以下の項目ごとに一つ選び、□にレ (チェック) を付けて下さい。

<主な授業科目>

- 講義       演習 (ゼミ、PBL 等)       実験・実習       実技

<主な遠隔授業の方法>

\* ( ) のいずれか一つを○で囲って下さい。

- オンデマンド型    リアルタイム型    ハイブリッド型(ハイフレックス、ブレンディット、分散)

<遠隔授業の主な学修評価の方法>

- オンライン筆記試験(持ち込み含む)    授業で理解度確認の小テストや課題提出  
 ルーブリックの活用                       議論や口頭発表                       複数の評価法組み合わせ  
 その他( )

<遠隔授業試験の不正行為防止策>

- 防止策をとっていない  
 防止策をとっている  
(防止策の方法： )

<遠隔授業に対する学生側の主な課題>

- レポート等の課題が多い    身体的な疲れをより感じる    友達と一緒に学べず、寂しい  
 質問等、相互のやりとりの機会がない・少ない  
 その他 ( )

----- 次のページもご記入ください -----

(3) 問題発見・課題解決型教育(PBL)の導入理由について、先生はどのようにお考えですか。2つ以内を選び、□にレ (チェック) を付けて下さい。

- 知識の使い方を体験させ、主体的な学びを訓練するのに必要と思う。
- 問題解決のアプローチの仕方と実践力を身につけるために必要と思う。
- 多分野で協働し、思考力、想像力、価値創造力等を身につけるのに必要と思う。
- PBLのニーズは認識しているが、授業運営に自信がないので導入しない。
- 学修の成果が学生一人ひとりに得られるのか疑問なので、導入しない。
- 知識の定着ができていないので、PBLの導入は考えていない。
- 授業科目の到達目標に適さないので、PBLの導入は考えていない。
- その他 ( )

(4) ポストコロナ社会において、質の向上を目指す「対面と遠隔を効果的に組み合わせるPBL」の工夫について、どのようにお考えですか。2つ以内を選び、□にレ (チェック) を付けて下さい。

- 社会課題の発見・設定を遠隔(ICT)で行い、課題解決を対面で訓練する。
- 知識の獲得を遠隔(ICT)で行い、多面的・多角的な考察の仕方を対面で訓練する。
- 分野を超えた意見交換、発表・評価を遠隔(ICT)で行い、問題解決を対面で訓練する。
- 遠隔(ICT)で国際連携教育のアクティブラーニングを訓練し、対面で国際通用性を体得する。
- デジタル技術(VR、シミュレータ等)で疑似体験を行い、対面で安全な実体験を訓練する。
- PBLの学内の発表・評価を対面で行い、学外のコンペティションを遠隔(ICT)で推進する。
- 特に関心がない。
- その他 ( )

(5) 上記(4)の「対面と遠隔を効果的に組み合わせるPBL」の実現に向けた課題について、特に重要と考えるものを3つ以内を選び、□にレ (チェック) を付けて下さい。

- 遠隔(ICT)と対面を組み合わせる授業の定着に向けた教育プログラムの推進
- 学修者本位の教育への転換を組織的に進める学内執行部のリーダーシップの発揮
- 学修支援システム(LMS)等、ICTによる学びのプラットフォームの整備・充実
- 学修支援に対する教員の意識啓発の働きかけとFDの強化(学生・職員・企業等の参加等)
- 遠隔(ICT)でTAやSAによる学修支援体制の整備・強化
- 学内教員によるPBL科目間の教育成果・課題の共有サイトの整備
- 過度の学修負荷を軽減するため、授業科目間の統合・調整の推進
- PBLの授業設計・方法、ICT活用スキルの支援組織の整備・強化
- 大学と企業・自治体等とのPBL授業の連携協力体制の整備・充実
- 学生の通信環境を維持するための経費等支援、通信トラブル対応の整備
- その他 ( )

(6) 「対面と遠隔を組み合わせた授業全体の学修プラットフォーム」に求められる機能について、特に重要なものを4つ以内を選び、□にレ (チェック) を付けて下さい。

- 対面と遠隔を組み合わせた授業実施状況の情報のアーカイブ化と共有化
- オンデマンド型・リアルタイム型・ハイブリッド型授業のガイダンスの場
- 学修者同士による教え合い・学び合いのコミュニケーションの場
- LMSでのTAやSAによる学修相談・助言支援の場
- 教員と学生、学生間、有識者等との意見交換・発表・評価の場
- ポートフォリオ、授業アンケート等の作成支援と教員からのフィードバックの配信
- PBL授業のネットオリエンテーションの場
- 教材の掲示・配信、ビデオの収録・視聴、参考文献の紹介、関連情報へのアクセスの場
- 学修成果物の掲示と共有化(チームの解決案、学生個人の解決案)
- ルーブリック評価のアーカイブ化(チームのルーブリック評価、学生個人のレポート)
- 個人情報漏洩など情報セキュリティの防御システムの強化
- その他 ( )

アンケート調査にご協力をいただきありがとうございました。